

1 灘区における「安全安心」の取り組み

灘区のこれまでの取り組み

以前に比べ、最近の事件・犯罪の多様化、複雑化などの「外的要因」や、地域活動の主要メンバーの高齢化、後継者不足による絶対数の減少など「内的要因」もあり、今、「防犯」に関して、地域活動のあり方が、曲がり角に来ていると思われます。

しかしながら、ここ数年、連日マスコミを賑わせる悲惨な事件や犯罪、特に子どもが巻き込まれる痛ましい事件が多発したこともあり、危機感を抱いた地域の皆さんの中から、「子ども見守り活動」をはじめ、地域ぐるみの新しい取り組みも始まっています。

そのような中、兵庫県警が2005年（平成17年）10月に、地域の事件・犯罪情報をタイムリーに配信する「ひょうご防犯ネット」を立ち上げたことを受け、灘区では、その情報を活かした新しい取り組みもスタートしております。

また、地域における様々な既存の活動と並行して、これまで「防犯」とは、あまり接点のなかった方々も参画できるような、新しい仕組みや、情報提供をしていこうと考えました。

これは、灘区内で既に活動されている組織・グループにヒントを得たことによります。

ここに3つの先駆的な取り組みをご紹介します。

どの取り組みも、个性的かつユニークであり、ひと味違う味付けが成されており、今後の地域活動のあり方に、参考になるものと思われます。

〔事例1〕灘防犯協会赤坂支部防犯みはり運動

灘防犯協会赤坂支部では、2003年（平成15年）9月より、地域ぐるみで「防犯みはり運動」を実施しています。地区内の約1,800世帯全てが玄関に、防犯協会作成の独自ステッカーを貼り、住民が1日2回（15～19時の間に1回、就寝前の計2回）家の外に出て、周囲を見回し、犯罪を防止しようとするもので、全国初の防犯活動の例であり、翌年には、「灘防犯協会」全体の取り組みへと発展しました。



赤坂支部の目入りステッカー

これは、活動する住民の負担が少ないこともあり、誰でも参加しやすく、長期的な活動が期待できます。実際、この活動により、地区内の犯罪は減少しました。

〔事例2〕灘防犯協会鶴甲支部定時パトロール

灘防犯協会鶴甲支部定時パトロールは、地区内に「空き巣」が増加したことがきっかけに、2003年（平成15年）6月にスタートしました。

発足以来、余程の「悪天候」でない限り、パトロールは中止せず、毎月2回のペースで、パトロールを継続されています。

一般的に、同様の「地域パトロール」を立ち上げても、長期にわたり継続することは非常に難しいと言われており、多くが2年ほどで解散という事例もある中、鶴甲支部のように、5年以上継続されていることは、「言うは易く行うは難し」ではありませんが、なかなかできることではありません。

防犯協会鶴甲支部の会員は意外と少なく現在7名。

なぜ少人数で長い間も継続できているのかを伺うと、7名の小所帯の後ろに、会員を支える「防犯ボランティア」が、80名ほど居られるとのこと。

「防犯ボランティア」は、会員とは違い、時間や場所など、自分たちができる範囲でサポートします。

その活動のひとつである「定時パトロール」も、会員に「防犯ボランティア」も加わることにより、厚みが増します。

そして、長年にわたり継続できている大きな要因として、自分たちのまちが大好きな人たちが集まり、パトロール中も和気藹々と仲良く、コースもマンネリにならないよう、集合地の鶴甲交番に集まったその日に、その時のテーマや、様々な情報でコースを決め、その都度変更するなど、工夫されています。

この方が、「マンネリにならず、且つ、効果は高い。」とリーダー談。



鶴甲支部定時パトロール